

支援対象国

インドネシア共和国



インドネシアは、世界有数の災害多発国と言われています。環太平洋火山地帯に属し、地震の多発地域であるほか、129の活火山が存在し、火山噴火のリスクも抱えています。1万3000の島々からなる島国であり、地震や火山噴火に伴う津波のリスクへの対応は急務とされています。また、アジア・モンスーン地域に属しており、雨季に非常に強い雨が降るため、毎年数多くの洪水、浸水被害が発生しています。

同じ災害リスクを共有する日本とインドネシア。お互いの知見と経験をいかして、地震と津波などの災害から命を守るため、日本赤十字社とインドネシア赤十字社はともに、コミュニティ防災事業に取り組んでいます。



これまでのご支援、誠にありがとうございます。

赤十字の活動は皆さまからのご寄付に支えられています。

さらなるご協力を募集しています！

海外たすけあいキャンペーン

世界の紛争や自然災害、飢餓、病気などで苦しんでいる人びとを支援するため、日赤とNHKは1983年から毎年「NHK海外たすけあい」募金キャンペーンを実施しています。

海外たすけあいキャンペーン

毎年12月1日～12月25日

海外救援金

大規模な紛争や災害により甚大な被害が発生したとき、犠牲者・被災者支援のため、救援金を募集しています。

海外たすけあいキャンペーン報告書、
海外救援金募集状況はこちら



活動資金

国際活動を含む日赤全体の活動を支える活動資金も募集しています。 <http://www.jrc.or.jp/contribute/>

企業の方へ

ご希望の事業をご支援いただくことが可能です。
詳細は下記の連絡先までお問合せ下さい。

もっと知りたい方は・・・

赤十字国際ニュースにご登録ください

大きな紛争や災害から、スポットライトの当たっていない人道危機まで、様々な対応を行う赤十字の活動を発信中！

【定期購読】

まぐまぐ登録画面よりメールアドレスをご登録ください。
毎週金曜日に赤十字国際ニュースをお届けします。



まぐまぐ登録画面

URL <http://goo.gl/UeRLTU>

インドネシア コミュニティ防災事業



検索

日赤 インドネシア・コミュニティ防災

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3

日本赤十字社 <http://www.jrc.or.jp>

TEL:03-3437-7089 (国際部 開発協力課) 2016年12月作成

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

地震と津波に対する

コミュニティ防災とは？

住民が活動の中心となって身の周りのリスクを再認識し、解決策に取り組み、災害に対応できる知識と能力を身につける一連の活動を通して、住民の災害からの回復力(災害のインパクトを軽減し、適切に対応し、逆境から立ち上がる力)を向上させることを目標としています。

その1 住民が主役！

コミュニティごとに災害対策委員会が作られ、活動の主体となります。活動を担う地域のボランティアも育成します。



その2 地域の危険に気づき、理解する



住民自身がリスクを再認識し、リスクマップを作成。防災活動の計画を立てます。

その3 リスクを減らすための活動

地域のリスクに応じた防災・減災活動を行います。災害対応計画や防災訓練、研修を通じて災害に備えます。



その4 地域行政に対する啓発

地域行政の非常事態対応計画の策定や避難訓練実施への支援を行います。日頃からの連携も強化します。

ハード面の対策も欠かせない地震・津波対策には、地域行政の巻き込みが必須。連携を深めて、大きなインパクトを目指します。



その5 インドネシア赤十字社の組織強化

インドネシア赤十字社の災害対応や防災事業を実施する能力を強化し、より多くのインドネシア国民に支援を届けます。

事業概要

■フェーズ1

事業名：コミュニティ防災事業
期間：2012年8月～2015年9月 ※終了
事業地：ジャワ島バンテン州

■フェーズ2

事業名：地震と津波に対するコミュニティ防災事業
期間：2016年4月～2020年3月 ※実施中
事業地：スマトラ島ベンクル州

在インドネシア日赤職員メッセージ



日赤職員のアウルディーンです。2004年のスマトラ島沖地震・津波災害で故郷のアチェ州が大きな被害を受けたことをきっかけに人道支援に携わるようになり、今は、この仕事が私の生きる意味そのものだと感じています。

ベンクル州はスマトラ島に位置し、地震と津波が発生するリスクが高く、対応は急務です。インドネシア赤十字社、地域行政等と連携を強めて、より高い効果を生み出せるよう取り組んでいます。

日赤職員のヤナ・マウラナです。中学生の時から赤十字のボランティアをしていて、再び関わるようになったのは、私も2004年の災害がきっかけです。

これまで多くの防災事業に携わってきたので、その経験をいかして全力で貢献したいと思います。



インドネシアを災害から守るため… サポーター大募集！

バンテン州コミュニティ防災事業報告 (フェーズ1)

私は、洪水時に安全な水が手に入らないことが一番不安でした。水タンクができて心から安心しました。



防災活動では、洪水時の避難用ボートや衛生的な飲料水を確保するための水タンクの整備などが行われ、自然災害に対する住民の備えが高まっています。



私の役割は、災害時に警戒情報を住民に伝えること。SNSなどのさまざまなツールを使うつもりよ！

災害時にどう情報を入手し伝えるか、どう避難するか、どう人を助けるのか。地域のリーダーとボランティアが、ワークショップを通じて災害時の対応手順書を策定しました。

これからは、日赤の支援で得た知識と経験を生かして自立して活動していきたい！



3年間を通して、インドネシア赤十字社バンテン州支部の災害対応やボランティア運営の能力が強化され、より多くの被災者に対して支援を届けることができました。